

# 吉野が訪れた・・・ 90年前の風景を発見!

古川では吉野作造が見ていた風景や建築物を見つければ容易ではありません。

しかし、日本とは気候風土の異なるヨーロッパでは、近代化を推進しながら、古い石造りの建築物を残してきました。

このほど、吉野作造が留学した時期（一九一〇〜一三年）の

吉野留学時代の下宿先住所や足取りは、当時書かれた日記や書簡に手掛かりがあります。

今回は日記の記された場所を現在の名称や住所などを頼りに、地図上へ落とすことから始めました。その結果ハイデルベルク・シュトラスプール・プラハ・ウィーンにおける吉野の足跡の



リーデンハイム付近の風景(車窓より)



リーデンハイムのオットマー・コルムシュテッター氏と1890年代の家屋



ハイデルベルグ 吉野下宿先付近の通り



ウィーン吉野下宿先  
現在も学生アパートとして  
使用されているようだった。

ハイデルベルクから吉野を招いた土地です。そして吉野も当時の人口六七〇人程度のカトリックの小さな農村をとてにも気に入り、五ヶ月間滞在しました。新鮮な食べ物に温かい人情、敬虔な宗教心を抱いた人々、警察は不要なほどの治安のよさに驚嘆しながら、ドイツの地方農村に国力の源を見出しています。

実際に訪れてみると、車なら数分で通り抜けてしまうような小さな村でした。この村には、吉野が滞在した郵便局長宅が現在も同じところに同じ職業のまま存在していました。その当時「東洋の大学教授」が来たことはこの村にとって大事件であったようです。それは「吉野先生はとてもしゃれた教授だったと聞いている」と、父親からの伝聞を当主コルムシュテッター氏が記憶していたことから想像できます。吉野が「一種の社会教

育機関」と称した酒場「ドイツ皇帝のレストラン」や教会、小学校は郵便局長宅の目と鼻の先

に、九〇年前とはほぼ同じ姿でそこにありました。周囲には麦畑

がなだらかに広がり、吉野がこの地に愛着を感じたのは、故郷

古川の姿を重ね得たからではないかと思われま

す。

一方ハイデルベルクでの吉野

の学籍簿についてはハイデルベルク

大学文書館のご協力を得たにもか

かわらず、不明のままです。また、吉野は徳富蘇峰あ

てのハガキに「*an den Jungsstr. 21*」と下宿先の住所を記しまし

たが、この住所は現在なく、「筋向う」の佐々木惣一（憲法学者）の下宿やよく食事したホテルからどんな地区に住んでいたかを推測するに留まりました。吉野ら日本人が住んでいたのは、大学や市庁舎の集中する旧市街でなく、少し離れた新市街でした。



ウィーン市庁舎と広場

ン大学や市庁舎から徒歩で数分程の小路にありました。一九一一年九月十七日、吉野は朝新聞を見て食品価格騰貴に関する市民のデモがあると知り、すぐに服を着替えて市庁舎前広場にかけています。整然たる大規模のデモを見たことは、吉野の民衆運動観を大きく変えました。それが、それもこの下宿の位置が一役買ったといえるでしょう。

さらにドイツとフランスの国境沿いの町・シュトラスプールでも吉野の下宿先を発見、滞在中語学の家庭教師とよく散歩していたオランジェリー公園の近くにその建物がありません。

他にも吉野が観光や見学した多くの場所を辿りましたが、何よりも吉野の健脚ぶりと行動力に感心しました。末筆ながら、同行の飯田泰三先生始め、丸山真勇手帖の会のみなさんに感謝申し上げます。

(文責 田澤晴子)